



JR西日本津波避難訓練

JR西日本と連携し、近い将来高い確率で発生が予想される南海トラフ地震で発生する津波を想定し、津波緊急情報が発令されたとの想定のもと、列車に乗車されているお客様の人命や地域順民を安全に避難できるよう、スタジアム近隣地域の皆様や企業の方にご協力いただき「津波避難訓練」を実施いたしました。

活動場所 : JR和田岬線およびノエビアスタジアム神戸

取組テーマ : 防災・震災復興

協働者 : 企業／住民／学校／行政

協働者名 : 西日本旅客鉄道株式会社

活動で工夫した点

実際に列車を動かし、リアルな訓練を行い、JR西日本はどのように乗客の避難誘導を行うか、スタジアム管理を行っている楽天ヴィッセル神戸は、災害時にスタジアムを素早く解放し、地域から避難してくる方々をどのように受け入れるかなどを改めてチェックすることを目的として実施。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

災害時は電気や備品など身の回りの限られた手段で、約620名もの乗客（避難者）へ災害情報の伝達、避難誘導をどう伝えるかが課題として上げられました。

クラブや地域の活動後の変化

阪神淡路大震災を経験している地域住民の意識は高いが、企業、そして避難施設としてスタジアムを管理しているヴィッセル神戸が訓練に参加し、それぞれが連携することで、“人の命を守る”という意識を改めて認識させられた訓練活動となりました。



協働者の声

災害時のお客様誘導と地域住民、企業、行政との連携は不可欠となります。今回実際に走行中の列車から最終的にスタジアムへ避難するという流れの中で地域の方々、企業、行政が連携して行えたのは非常に良かったです。

参加者の声

普段の生活の中で起こりうる場面を想定しての訓練は非常に良かったです。あって当たり前前のスタジアムに避難するという安心感も確認することができました。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

普段の生活の中で起こりうる事態を鉄道会社と連携し訓練出来たのは非常に良かったです。今後も他の機関を巻き込んでスタジアムを使った訓練を実施していきたいと思っています。

補足

-